

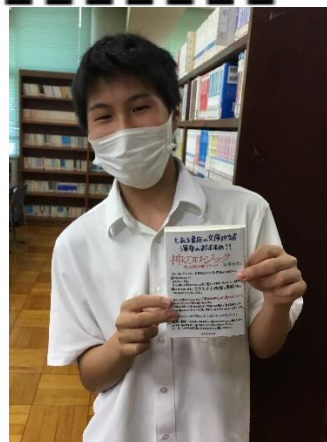


図書館だより

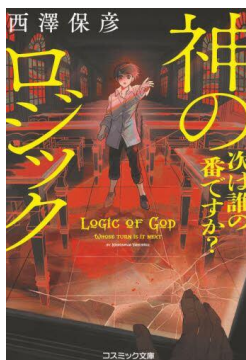
ビブリオバトル 1学年大会が実施されました！

7月20日(終業式)の放課後、図書館でビブリオバトルの1学年大会が、実施されました！各クラスから一人ずつ代表者が選ばれ、それぞれ持ち寄ったおすすめの本を紹介しました。チャンプ本に選ばれたのは、1年5組星野達磨(たつま)くんが発表した『神のロジック 次は誰の番ですか?!』!

なお、星野くんと、二学年代表の藤巻くん(2-4)の一騎打ちで学校代表戦が実施され、その勝者は群馬県大会に出場します！



『神のロジック 次は誰の番ですか?!』あらすじ
舞台は人里離れた全寮制の学校。ここでは、生徒が「推理ゲーム」などの風変わりな課題に挑んでいた。そんな中次々と殺人事件が勃発。犯人は誰なのか？生徒たちはなぜ集められたのか？謎が謎を呼ぶ、驚愕のミステリ。



☆川崎先生(社会科)のオススメ本 紹介☆

前号の校長先生のオススメ本紹介文に、「現実に未曾有の災害が起こっている。どんなに真面目に生きていたって容赦はしない。…」という文章が引用されていた。今から約80年前には、災害だけではなく、戦争という“人災”が世界中の人々に襲いかかっていた。

今回紹介する「ざわわざわわの沖縄戦」では、太平洋戦争末期に沖縄で起きた民間人を巻き込んだ地上戦について、様々な証言にもとづいて記述している。

“ざわわざわわ”とは、サトウキビが風になびく様子を表現している。本の中に、吉嶺全一さんの証言で「(ガマに訪ねてきた切り込みをひかえ、さとうきびを分けてほしいという兵隊について)あの戦場で宝石みたいなお米を民間人にくれたのですから、神様みたいな人です…死に土産にキビを一口食べたかったのかな…」というものがある。いかにサトウキビが戦時中貴重なものであったかを物語っている。また、サトウキビが戦禍では、食料として人々を救っただけではないことも書かれている。

戦争が人々の心にどのような傷を残すか、戦争の記憶が薄れてきている今、ぜひ手に取ってほしい作品である。

※注意※沖縄戦の様子が生々しく書かれている部分もあります。



本のない部屋は、魂のない肉体のようなものだ。

A room without books is like a body without a soul.

——キケロ——

※古代ローマの政治家・哲学者。カエサルとかブルータスと同時代。世界史でも重要人物。

